

「大島外交」のレガシーと これからの国際協力・人道支援

星野俊也

2023年5月22日

故大島賢三元国連大使を偲ぶシンポジウム
国際社会における防災協力と人道支援

*本講演での意見はあくまでも個人のものであり、所属する組織のものでありません。

「大島外交」のレガシー

「大島外交」の3つの特徴：

- 課題に正面から真っ直ぐに向き合う“気合”の外交
- 相手を親身に支える“共感”の外交
- 普遍的価値の実現のため現状打破を目指す“変革”の外交

「（被爆して生き延びた）自分の生涯は“もうけもの”。紛争や災害の被災者や犠牲者、弱者に対する人道的救援に携われるのは幸せなことと言うべきではないか」

（国連の人道担当事務次長に就任にする前に東大合気道部時代の恩師に宛てた手紙の一節。共同通信、2021年8月17日記事より。）

「大島外交」の3つのこだわり

- 平和と人間の安全保障
- アフリカ開発協力
- 被災者支援

これからの国際協力と人道支援に向けて

⇒「新世代の人間の安全保障」概念を打ち立てる

ミッション：2003年の『国連人間の安全保障報告書』をアップデートし、

- 1) 「新時代の人間の安全保障」概念を打ち立て、 ⇒ 知的作業
- 2) それを国際社会で主流化させること ⇒ 外交作業

国連代表部在勤時より「人間の安全保障」概念の再活性化を検討。

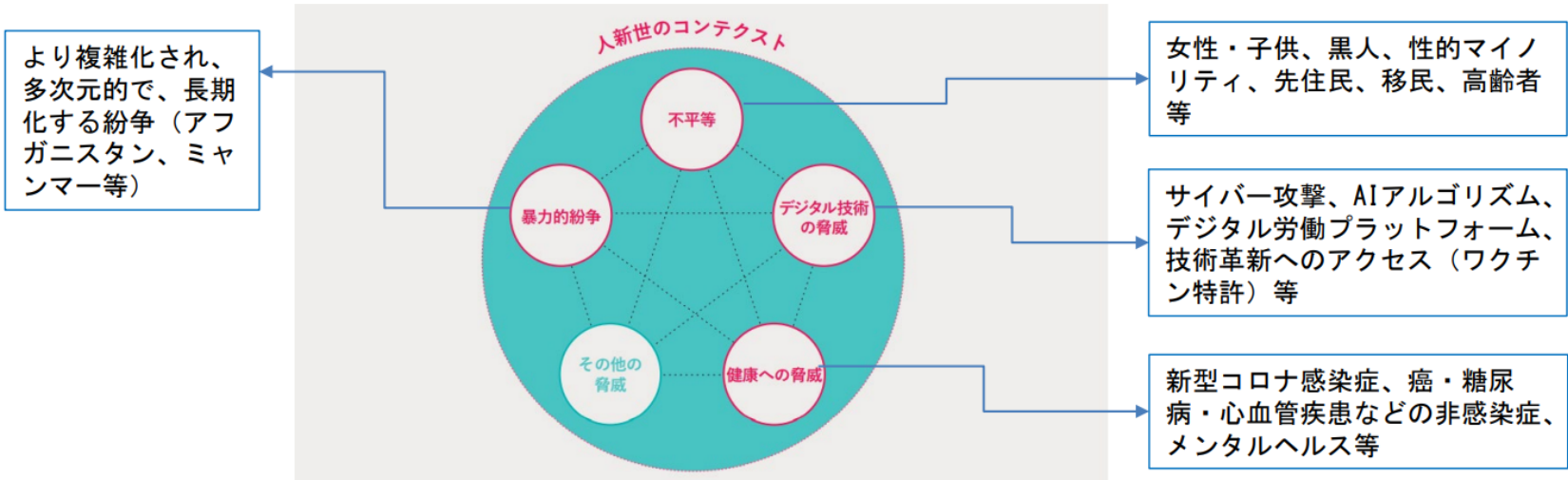
(社会経済開発・人道支援・人権保障の縦割り現象の解消)

⇒そのなかで新型コロナの発生

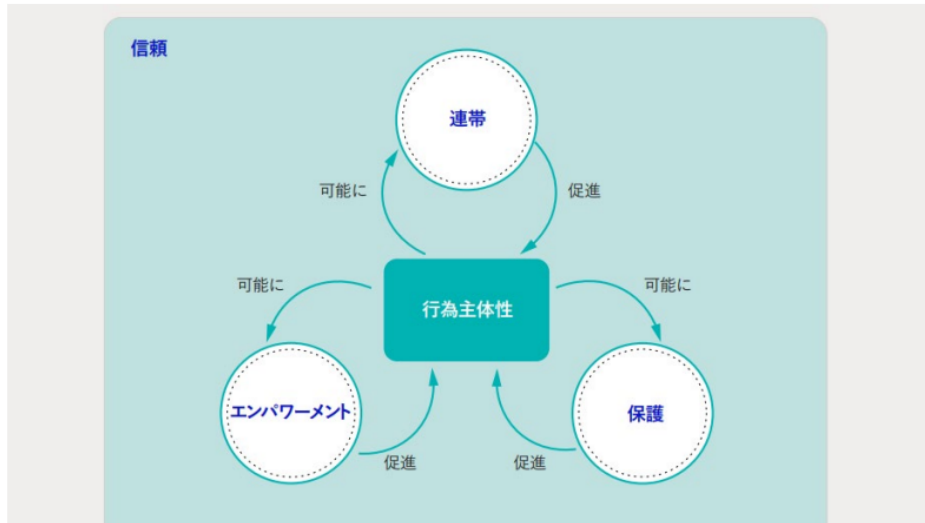
2つの全般的な問い：

- 1) **SDGs (誰一人取り残さない) 時代に「人間の安全保障」の意義は？**
- 2) **地球規模課題 (気候危機、新型コロナ、DX等) が進む中「新世代の人間の安全保障」とは？**

新たな時代の人間の安全保障アプローチ（特別報告書の提言）



これらの人新世における新たな脅威に対処する人間の安全保障アプローチ



図表の出典：人間の安全保障に関する特別報告書

人新世の時代背景における、

人間の安全保障の新たな脅威に対し、

人間の行為主体性を自覚し、

「保護」と「能力強化」と「連帯」で立ち向かう。



ISBN 978-4-296-20089-4
C0031 ¥3000E

定価：[本体3000円+税]
発行：日経BP
発売：日経BPマーケティング



2022年
特別報告書

さらなる連帯で立ち向かうとき
人新世の脅威と人間の安全保障

国連開発計画(UNDP) [著・訳]
星野俊也
大阪大学大学院国際公共政策研究科教授 [監訳]



20089

2022年特別報告書

人新世の脅威と 人間の安全保障

さらなる連帯で立ち向かうとき

2022 SPECIAL REPORT:

**New threats to human security
in the Anthropocene**
Demanding greater solidarity

国連開発計画(UNDP) [著・訳]

大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
星野俊也 [監訳]



国連開発計画

(United Nations Development Programme、略称 UNDP)

貧困や格差、気候変動といった人類の脅威とたたかう国連の主要機関。約170の国と地域において、人間と地球のために総合的かつ恒久的な解決策を構築すべく、様々な専門家や連携機関からなる幅広いネットワークを通じ、政策提言、技術支援、資金提供、支援プログラムなどを行っている。本部はニューヨーク。日本にも事務所があり、人間の安全保障や持続可能な開発目標(SDGs)をはじめとする、日本とUNDPの共通課題において開発協力を推進している。

『人間開発報告書』UNDPの最も重要な刊行物。「人々はまさに国家の宝である」という言葉を冠に1990年に創刊して以来、UNDPはほぼ毎年、同報告書を発表。豊富なデータを用いながら、時代に即した革新的な分析や政策提言を行ってきた。また、開発の成果を測る新しい考え方として、人間開発指数など多くの新指標を発表し、世界の開発政策に大きな影響を与えてきた。『人間開発報告書1994』では人間の安全保障という概念を世界で初めて打ち出し、「欠乏からの自由、恐怖からの自由」と位置付ける。人間の安全保障は日本政府の外交政策の中心に据えられ、UNDPと日本は長年、ともにこの考え方を積極的に推進している。

星野俊也

大阪大学大学院国際公共政策研究科教授。2017年8月から3年間、国連日本政府代表部大使・次席常駐代表を務めた。上智大学外国語学部卒。学術修士(東京大学)、国際公共政策博士(大阪大学)。在米日本大使館専門調査員、プリンストン大学客員研究員、コロンビア大学客員研究員、日本国際問題研究所主任研究員などを経て現職。大阪大学では副学長も歴任。国際交流基金関西国際センター所長、日本国連協会理事、韓国・慶熙大学客員教授など兼任。本特別報告書のバックグラウンド・ペーパー執筆者の一人。専門は、国際公共政策学、国連外交、地球規模課題、SDGs/ESG、平和構築、人間の安全保障。

2022年12月出版

日経BP

これまでの経緯

令和4年2月
外務省地球規模課題審議官組織

■2020年9月の第75回国連総会一般討論演説において、菅前総理から「いま、新たな時代の人間の安全保障の考え方に立って、様々な危機を乗り越え、SDGs達成をはじめとした地球規模の課題への取組を加速する。そのために、私は、世界の英知を集め、議論を深めていくことを提案」した。

■上記の総理の表明のフォローアップとして、UNDP(国連開発計画)と協力し、国際的なメンバーによる議論の場として、**ハイレベル諮問パネル**を設置(武見敬三参議院議員が共同議長として参加)。**人間の安全保障に関する特別報告書作成**に向けて議論が行われ、2022年2月8日にUNDPにより公表された。

特別報告書の内容

<表題>人新世の時代における人間の安全保障への新たな脅威:より大きな連帯を求めて

■人新世^(注)における人間の安全保障への新たな脅威として、技術、暴力的紛争、不平等、保健の4つの脅威を取り上げ、これらの脅威に対処するために、**保護と能力強化(エンパワーメント)**という伝統的な人間の安全保障の二つの柱に加えて、**連帯**という第3の柱の必要性を提唱。

■これらの脅威は相互に関連しており、政策決定プロセスにおいては、人間の**主体性**を中心に置いて、保護・能力強化・連帯を推進するという新たな時代の人間の安全保障アプローチが効果的な政策枠組みとして提言。

(注)「人類の時代」という意味の新しい時代区分。人類が地球の生態系や気候に大きな影響を及ぼすようになった時代を指し、現在である完新世の次の地質時代を指す。

今後に向けて

■2月8日のグローバル・ローンチを皮切りに、UNDPが各地域で発刊イベントを行う予定で、日本でも改めて発刊イベントが行われる予定。日本政府としては、UNDPと連携して国内外への発信に努めると共に、国際場裏において人間の安全保障の議論を活性化していく。

政策ツールとしての「新世代の人間の安全保障」=「人類の安全保障」

- **人間が主体 (agency)** となり、様々な関係主体、脅威を分野横断的、多面的、ホリスティックな視点から統合して解決策を導く“policy integrator”としての政策ツール。

⇒ **3つの「相互関連性 (interconnectedness) 」**

1) 各脅威ないし 이슈の間

2) グローバルな枠組みとローカルな枠組みとの間

3) 人間と地球環境との間

人類と地球の共存なしに人間のみの安全保障を進めることのリスクも。

人間と地球環境・生態系との関係性をリマインドする思考の枠組みを提示。

- **「人新世のリスク」が人間の仕業であるなら、「人新世のソリューション」も人間のできること。**

⇒ human agency による、分断ではなく団結、自分ファーストではなく連帯、単独主義ではなく多国間主義を通じた国際協力や「国際公共財」の提供のための政策ツール。

例) グローバルな仕組みによる公共財としてのワクチンの調達と最も脆弱な人々を含むコミュニティの人々への配分。

インターネットのコネクティビティを公共財として拡大、デジタル・デバイドを改善。

防災・レジリエンスの強化。

「誰もが安全でなければ、誰も安全にならない」という新型コロナの教訓の継承。

いま「歴史・運命の大きな分かれ道」にあるという実感はあるか？

2023年現在（いま）における「1945年体制」の限界

⇒ **新たな秩序へ（正真正銘の）「分岐点」⇒「大転換」のとき**

立て続けに起こる全人類単位・全地球規模の危機（Existential threats）

気候変動・新型コロナ・ロシアのウクライナ侵攻

（+核の脅迫、食料・エネルギー危機、災害の激甚化）

⇒ 人類（私たち）は「破局」を免れ得るのか？

いまが歴史・運命の「大きな分かれ道」にあるという認識はあるか？

私たちは、「プラネタリー」で「コスモポリタン」な認識をもつことができるか？

「破局」を避けるための行動・政策を実践できるのか？

いま「歴史・運命の大きな分かれ道」にあるという実感はあるか？

2種類の危機：（3つ目として、両者のミックス）

- **人間の意図・作為による危機** – 戦争、紛争、テロ、差別・人権侵害など
- **人間の不作為・無関心による危機** – 気候変動、生態系破壊、無意識偏見など

↓ ↑

- 1) 地球の「限界」：人間活動の爆発的拡大による過負荷・破綻・災害激甚化
- 2) 世界の「分断」：地政学的対立、紛争、国家vsテロ組織、格差・不平等
- 3) 科学技術の「暴走」：AI、デジタル、サイバーの負の影響

↓ ↑

持続可能な世界に向けたソリューション（解決策） = SDGs  が羅針盤

- **国際的・グローバル・多角的**な視点で（⇔自己中心的な視点でなく）、
- 従来の**常識を覆す大胆な発想や手法**なども取り込んで、（⇔現状の延長、小手先の改革）
- **人々がお互いの命と尊厳を大切にし合い、生き物や自然と共生**できる、
- **豊かな共通の未来を築くためのソリューションの必要**

Need to Choose a "Transformation" model **「持続可能」な未来 = 平和・繁栄** **「持続不能」な未来 = 破局**

Totally Unsustainable World
Continuation, proliferation and usage of nuclear weapons
 Catastrophe of the Anthropocene
 Crisis of extinction of the earth and mankind

Post-SDGs

Truly Sustainable World

- Net zero/Carbon neutral Society
- Exit to a World Free of Nuclear Weapons
- Society full of inclusion, diversity, equity, and human security

Ecological system: Symbiosis between humans, animals, and nature
 Security system: Security alternative to nuclear weapons
 Political system: Activation of intercity and civil society networks
 Economic system: Internalization of external diseconomies, and an economic model not based on GDP, but on ESG and SDGs
 Science and technology system: Human-centered society 5.0

私たちの選択は？

2030



**「転嫁」
モデル**

“Pass-on” model

Continuation or worsening of the current situation
 Hard landing scenario
 Competitive response

運命の分かれ道

**Crossroads/
Watershed moment**

World in 2023

“Transformation” model

**「転換」
モデル**

Paradigm change
 Soft landing scenario
 Cooperative response

Expanding global threats
 Continuation/expansion of conventional threats

Megatrends

* 2022年11月、COP27で報告した資料に加筆

In this spirit, I propose a **Summit of the Future** to forge a new global consensus on what our future should look like, and what we can do today to secure it.

Humanity has shown time and time again that it is capable of great achievements when we work together. This common agenda is our road map to recapture this positive spirit and begin rebuilding our world and mending the trust in one another we need so desperately at this moment in history.

Now is the time to take the next steps in our journey together, in solidarity with and for all people.

『私たちの共通の課題』

私たちは歴史の転換点を迎えています。
第二次世界大戦以来最大の共通の試練において、
人類はブレイクダウン（崩壊）か
ブレイクスルー（突破）か
という厳しい緊急の選択を迫られています。
 （2021年9月）



© UN Photo/Eskinder Debebe

これからの国際協力と人道支援に向けて

私たちに求められる3つのアティチュード：

- 課題に正面から真っ直ぐに向き合う“気合”
- 相手を親身に支える“共感”
- 普遍的価値の実現のため現状打破を目指す“変革”



大島大使のレガシーを私たちが受け継ぎ、発展させる意義は大きい